



金沢市立病院 呼吸器の「いま」

《 肺癌治療の進歩と地域医療に求められる新たな役割 》

呼吸器内科 科長 丹保 裕一

肺癌化学療法の世界は 1970 年代に遡ります。その当時は化学療法を行ったとしても数か月程度の延命効果しか得られず、生存期間も 1 年足らずという厳しい状況でした。

2000 年代に入ってから、EGFR、ALK をはじめとする複数のドライバー遺伝子が発見され、それに対する分子標的治療薬が登場したことで治療成績が劇的に改善しました。EGFR 遺伝子変異陽性の非小細胞肺癌を対象とした臨床試験では、生存期間中央値が約 4 年、ALK 融合遺伝子陽性では、生存期間中央値が 5 年以上といった報告されるなど、肺癌は長期生存が期待できる疾患へと変化しています。ドライバー遺伝子にはその他 ROS1、BRAF、RET、MET、K-ras、Her2、NTRK などがあり、それぞれ対応する分子標的治療薬があります。

2016 年からは、免疫チェックポイント阻害薬が登場しました。これにより、ドライバー遺伝子陰性の肺癌においても治療成績が飛躍的に向上しました。免疫チェックポイント阻害薬が奏効した場合、治療終了後も癌の悪化が見られず、5 年以上の長期生存が得られる例も増えてきました。

こうした治療の進歩により肺癌の患者さんが長期にわたり治療・外来受診を続けるケースが増えています。その結果、外来化学療法室の混雑、外来担当医師の負担増加、患者さんの時間的、経済的な通院の負担、治療と日常生活の両立の必要性といった課題が生じています。



当院では、周囲のがん拠点連携病院で治療を受けた患者さんに対し、化学療法継続、治療終了後の長期フォロー、生活支援、緩和治療などを担うことで、地域の医療機関と患者さん双方を支える役割を果たしていきたいと考えています。

肺癌診療が高度化し、治療選択肢が多様化する現在、患者さんが最適な治療へ円滑に到達するためには、地域内での情報共有と連携のスピードがこれまで以上に重要となっています。そのため、肺癌が疑われる患者さんについては、ファーストステップとして当院へご紹介いただくことで、当院からがん拠点病院への迅速な連携が可能となり、診断・治療開始までの流れをよりスムーズに構築できます。

開業医の先生方と当院、そしてがん拠点病院が三者で連携することで、患者さんが迷うことなく最適な治療へ進める地域体制を整えてまいります。今後とも、肺癌診療における地域連携の強化にご協力いただけますと幸いです。

《 治療に難渋する喘息への対応 》

呼吸器内科 医長 寺田 七郎

近年、気管支喘息は吸入デバイスの進歩もあり治療コントロールに難渋する機会は減少してきました。しかしながら、現在でも難治性喘息患者さんは喘息全体の5%存在と言われています。今回は難治性喘息について説明いたします。

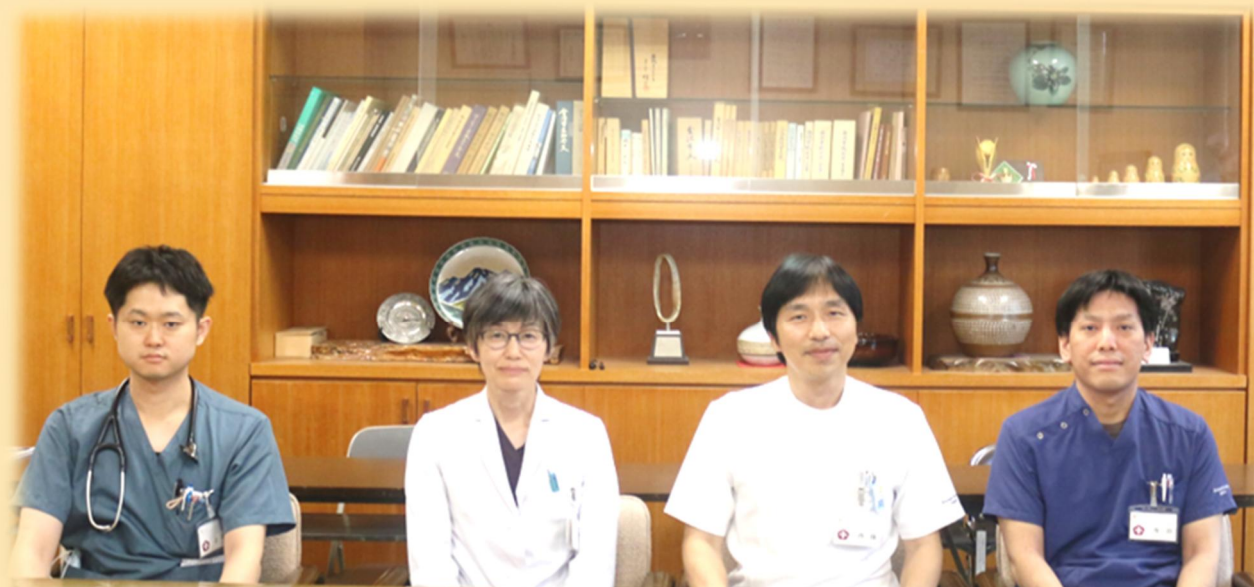
高容量の吸入ステロイドに加えて複数の長期管理薬を使用してもコントロール不十分な場合を難治性喘息と言います。難治性喘息ではコントロール不良の原因を探ることが必要です。まずは、アドヒアランスと吸入手技を確認します。また、気管支喘息の診断が正しいかの再確認や合併症（好酸球性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、肥満、胃食道逆流症、睡眠時無呼吸症候群など）の状態把握や管理も必要です。除去可能な環境要因を確認することも重要となります。

難治性喘息に対しては末梢血好酸球、呼気一酸化窒素、IgEなどの検査所見や合併症を参考に生物学的製剤の使用が検討されます。生物学的製剤は次々と開発されており、現在国内では6種類の薬剤が使用可能となっています（オマリズマブ、メポリズマブ、ベンラリズマブ、デュピルマブ、テゼペルマブ、デペモキマブ）。



これら生物学的製剤の登場により、難治性喘息でも増悪の抑制、呼吸機能の改善、喘息症状の改善、経口ステロイド薬の減量などが達成可能なものとなってきました。

難治性喘息が疑われる患者さん、治療に難渋されている患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当院へご紹介ください。専門的な評価と生物学的製剤の適応判断を含め、患者さんにとって最適な治療と一緒に検討させていただきます。



上田医師

市川医師

丹保医師

寺田医師

《 肺炎球菌ワクチンの接種に関して 》

呼吸器内科 医長 上田 宰

肺炎は高齢の方に多く、入院が必要になることもある病気です。なかでも肺炎球菌は、肺炎だけでなく、敗血症や細菌性髄膜炎などの重症感染症を起こすことがあります。国内の調査では、重症肺炎球菌感染症を起こした成人 2,483 例のうち、65 歳以上が 70.0% を占めていました。また、65 歳以上の患者さんの 58.1% になんらかの基礎疾患があり、糖尿病 17.8%、慢性肺疾患 14.8%、慢性心疾患 14.7% などが多くみられました。

肺炎球菌ワクチンは、すべての肺炎を防ぐものではありませんが、重症化を防ぐための大切な手段です。これまで使用されてきた 23 価ワクチンでは、肺炎球菌による肺炎を 27.4%、重症肺炎球菌感染症を 42.2% 予防したと報告されています。2026 年 4 月からは、65 歳の方を対象とした定期接種が 20 価肺炎球菌ワクチンへ変更されます。



再接種の考え方も変わっています。以前は「23 価ワクチンを 5 年以上あけて再接種する」ことが選択肢となっていました。現在は以下のように方針が変わっています。①23 価ワクチンの再接種は原則として推奨されていません。②過去に肺炎球菌ワクチンを接種した方では、1 年以上あけて 20 価または 21 価ワクチンの接種を検討する考え方が示されています。

当科では、呼吸器疾患を有する方、肺がん治療中の方、ステロイドや抗がん剤を使用中の方など、肺炎が重症化しやすい患者さんを多く診療しています。年齢、合併症、治療内容、過去の接種歴を確認しながら、接種の必要性や時期についてご相談に対応しています。接種歴が不明な方も含めて、適切なタイミングでの接種を提案しています。

地域の先生方におかれましては、肺炎リスクの高い患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当科へご紹介いただけますと幸いです。



上田医師

寺田医師

《医療・介護連携に関する研究会 開催報告》

金沢市立病院にて第3回「医療・介護連携に関する研究会」を開催しました。当院の高田事業管理者による挨拶からスタートした今回の研究会では、行政、医療、介護の連携強化をテーマに、地域を支える2つの貴重な講演が行われました。まず、金沢市介護保険課の一山善広課長から、市の介護保険サービスの現状と高齢化社会に向けた今後の課題が示されました。

続いて、サードベース診療所の野口晃医師による講演では、身寄りのない高齢者が自宅で倒れているリアルな写真などが紹介され、在宅医療が直面する厳しい現実が参加者に突きつけられました。しかし同時に、患者さんの大好物のお寿司を訪問時に届けて心身のサインを見守る細やかな日常の支援や、人生の終末期を迎えた方の「旅行に行きたい」という願いを叶えるため、医師や看護師をはじめとする診療所スタッフが総出で車いす旅行を支えた温かいエピソードも披露されました。

どんな状況にあっても最期までその人らしく生きることを支える医療の本質に、会場全体が深く心を打たれました。

講演

テーマ：行政、医療及び介護の連携強化

演題1：金沢市の介護保険サービスの現状と今後について

講師：金沢市介護保険課 一山 善広 課長

演題2：在宅医療の現状と介護保険サービスについて～独居高齢者について考えてみる～

講師：サードベース診療所 野口 晃 医師

素晴らしいご講演をいただいた演者方々、参加してくれたサードベース診療所の看護師や大学生の皆様、そして多くの福祉関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

迫りくる2040年問題を乗り越えるには地域全体の輪が欠かせません。当院もさらに地域連携に努めてまいりますので、今後も一体となって支え合える体制を皆様と共に築いていければ幸いです。引き続き温かいご協力をよろしくお願いいたします。

野口 晃 医師

村井医師

地域連携室 担当室長補佐 門谷 美里

《新規登録医のご紹介》

《クローバー内科醫院》

院長 山形 光慶 医師

2025年9月、金沢市もりの里に「クローバー内科醫院」を開院し、早いもので、まもなく1年を迎えようとしております。

当院は、消化器・肝臓・内視鏡診療を専門とする院長・山形光慶と、糖尿病・内分泌代謝内科を専門とする副院長・船崎友馨の2名体制で診療を行っております。

私はこれまで、内視鏡検査を受ける機会を逃したことで、病気が進行した状態で発見された患者さんを数多く診療してまいりました。その経験から、地域の皆さまが安心して胃カメラ・大腸カメラ検査を受けられる環境を整え、病気の早期発見につなげたいとの思いで開院いたしました。

また、副院長は、糖尿病や内分泌疾患の専門診療を通じて、患者さん一人ひとりの生活背景に寄り添い、長期的な健康管理を支えることを大切にしています。異なる専門性を持つ2人の医師が連携することで、複数の疾患を抱える患者さんにも、切れ目のない診療を提供できるよう努めております。

それぞれの専門性を活かし、地域の医療機関の皆さまと連携しながら、身近で安心して相談できるクリニックを目指してまいります。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



住所：〒920-1167

金沢市もりの里1丁目 212番地

電話番号：076-204-9681

診療科目：内科・消化器内科・内視鏡内科・糖尿病内科・内分泌内科

休診日：火曜、日曜・祝日

HP:<https://cl-clover.com/> (2026.08.01 現在 ホームページ引用)



クローバー内科醫院

《 半田内科医院 》

副院長 鍛冶 諒介 医師

2026 年 4 月より金沢市小立野の「半田内科医院」に副院長として勤務しております、鍛冶諒介と申します。

私はこれまで杏林大学医学部付属病院の消化器内科にて、消化管疾患、肝胆膵疾患を中心に診療に携わってまいりました。特に、消化管出血や早期食道癌・早期胃癌・早期大腸癌に対する内視鏡治療を行ってまいりました。

半田内科医院は、昭和 46 年の開院以来、地域のかかりつけ医として内科診療を続けてまいりました。今後は、これまで当院が担ってきた地域医療を大切にしながら、内科全般の診療に加え、消化器内科・内視鏡診療の経験を活かした診療体制を整えていきたいと考えております。

当院では、生活習慣病をはじめとした慢性疾患の管理、発熱や腹痛などの急性症状への対応、胃カメラ・大腸カメラによる内視鏡検査を行っております。一方で、より専門的な精査や入院加療が必要と判断される場合には、金沢市立病院をはじめとした地域の医療機関と連携し、適切な医療につなげてまいります。

また、病状が安定した患者様の継続診療や、日常的な内科管理が必要な方につきましても、地域の診療所としてお役に立てればと考えております。金沢市立病院の先生方、地域連携室の皆様には今後もお世話になることが多いかと存じますが、円滑な病診連携に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



住所：〒920-0943

金沢市小立野 3 丁目 28-17

TEL：076-264-0255

診療科名：内科・循環器内科・消化器内科

診療内容：一般診療・健康診断・予防接種
人間ドック・訪問診療

休診：木曜午後・土曜午後・日曜日・祝日

HP：<https://handanaika.jp>

(2026.08.01 現在 ホームページ引用)



医療法人社団

半田内科医院